

Grove English Expression I

例文暗記シート・ワークブックを使って英語の基礎力固め ～まずはインプットから始めよう

東京都立南平高等学校教諭 作田恵美

はじめに

来年度の新1年生から新学習指導要領が実施される。新科目「英語表現I」は、4技能の中でも特に「書く・話す」活動を通して、英語で自分のことや身近なことがらなどを発表できる力（自己表現力・発信力）に焦点をあてている。そこで「英語表現I」の教科書 Grove English Expression I を使用して、高校1年生にどのような授業が展開できるかシミュレーションしてみる。

教科書の構成

2つのユニットで計20課、文法事項は関係代名詞の一部、関係副詞、仮定法など教科書の後半で扱うもの以外はほぼ中学の既習事項から成り、易から難へと配列されている。使用されている英文は易

しめの語彙で書かれ、長くても1文10語程度となっているので、中程度の生徒の英語力で十分理解可能である。

各課は見開き2ページで、文法ポイントは2つに限定されている。また英文は、すべてその課のトピックに即したものとなっている。生徒はパターン・プラクティスの練習を通して英文の構造を理解するとともに、その課のトピックに関する使える英文をインプットできるので、例文を暗記しその中からいくつかの表現を拝借するだけで、複数の英文でそのテーマについてまとまった内容を語る、または書くことができるように工夫されている。

また5課ごとにHOW TO MAKE A SPEECHのコーナーがあり(計4回)、学んだ英文を利用して、無理なくまとまった量の英文を書き発表することへもつながっていく。

授業展開

(時間配分1時間)

発信できるようになるためには、まずは英語の語順を意識した上で(文法を理解した上で)、使える英語をたくさん取り込んでいくことが重要だと考える。以下にLESSON 1を例に、教科書および付属教材を活用した授業のモデル案を示す。



資料① 解答書き込みシート

LESSON 1 新しい学年が始まります

文法項目 SV

POINT A : The bus stops at the school gate.

POINT B : My school is by the river.

Introduction (5分)

教科書のイラストを見ながら、CD (または教師) で Listening (T or F) を行う。

1. You can see a lot of students. (T)
2. This building is a school. (T)
3. You can see a train. (F)

答えを確認しながら、3. の文に続け、以下のような Interaction を行い、本時のポイントの文へと導入する。

T : ... No. 3. Can you see a train?

S : No.

T : So what do you see ?

S : A bus.

T : Yes. You see a bus. The bus stops at the school gate. (生徒に本時の Target sentence を repeat させる。)

T : What else can you see in this picture?

S : Cherry trees, river

T : Yes. The school building is by the river.

(生徒に Repeat させる。) (以下略)

解説・練習問題(20分)

上記のように、ターゲットセンテンスを導入、簡単に解説した後、練習問題を行う。

練習問題を宿題にした場合、英語があまり得意ではないためか、答えを直接教科書に書き込む、またはノートに答えだけしか書いてこない (そしてそのノートが非常に見づらい) 生徒が多い場合もある。そこで付属教材の「**解答書き込みシート**」(資料①)を利用することにする。このシートは教科書通りの形式 (選択問題、適語補充問題など) で解答した後で、その下に全文を記入できるようになっている。

英文音読(10分)

答え合わせが終わったところで、1課分まとめて全文の音読練習に入る。ここで英語の文の構造を意識した上で、トピックに関する意味ある一連の文をしっかりと頭にインプットしていく。

【方法例: 教師の後について Read & Look up】

単なる暗記力に頼って英文を誦んじて意味がない。常に英語の語順「S + V」を意識させる。そのため

には、例文の日本語訳を英語の語順で言ったり (例「バスは校門のところで止まる」⇒「バスは・止まる・校門で」)、英文も最初からフルセンテンスで一気に言わせるのではなく、「S + V」だけや、「S + V / (slash) M」のようにチャンクで区切ったりなどのプロセスを経て全文暗唱へとつなげる。クラス全体で口頭練習をすることにより、次に行うペアワークを英語が苦手な生徒でも負荷をあまり感じずに取り組

LESSON 1 新しい学年が始まります		CLASS: _____	NAME: _____	DATE: _____
<p>()の中に適切な語を入れて、教科書の本文を完成させなさい。その後にプリントを奪ち分けて、日本語中英訳がすぐに読めるようにペアになって繰り返し練習しよう。</p>				
POINT A 「Sは...する」▶「S+V(=be動詞)」SV		ENGLISH		
日本語		The bus () at the school gate.		
日本語		The school start () at ten in the morning.		
1 朝早くは午前10時に開校します。		() your teacher () in school by bus?		
2 あなたの先生はバスで通学していますか。		How () you () to school?		
3 あなたの先生はバスで通学に来るのですか。		It () to school.		
POINT B 「Sは...にいる(ある)」▶「S+V(=be動詞)+場所を教す語句」SV		ENGLISH		
日本語		My school () by the river.		
日本語		All the students () in the gym.		
1 生徒たちは体育館の中にいます。		() the art room next to the music room?		
2 美術室は音楽室の隣にあります。		() () () the new?		
3 彼女はここに住んでいます。		She () on the fourth floor.		
POINT C 「Sは...にある(ある)」▶「S+V(=be動詞)+場所を教す語句」SV		ENGLISH		
日本語		The convenience store () in front of the school.		
1 コンビニは学校の前にあります。		() the art room next to the music room?		
2 美術室は音楽室の隣ですか。		() () () the school library?		
3 図書館はどこですか。		It () at the end of the hall.		
4 彼女はここに住んでいます。				

資料② 例文暗記シート

むことができるようにする。

例文暗記シートでペアワーク(10分)

続いて英文の定着活動として付属教材の「**教科書例文暗記シート**」(資料②)を用いたペアワークに移る。このシートは、例えば POINT A については、例文⇒ PRACTICE A ⇒ DO IT YOURSELF A の問題の順で7題まとめて表になっている。

この「例文暗記シート」を配布し、ペアワークを行う。40人規模のクラスでのペアワークは教師の目がまんべんなく行き渡るのが難しく、必ずしも全員が主体的に取り組むとは限らない場合もあると思うが、ペア同士で椅子を向い合わせにして身体ごと向き合っている、机をつけて行う、立って行う、ペアの組み合わせを状況に応じてアレンジするなど、生徒が取り組みやすい状況を作り、頑張らせたい。

〈取り組み手順例〉

- ①各自で()に答えを入れ英文を完成させる。(2分)
- ②ペア(A・B)同士で問題を出し合う(3～4分×2回=6～8分)。その際お互いのプリントを交換しておく。

最初 A が問題を出題し(日本語で)、B が答える(プリントを見ずに英文で答える)。A は B の答えをプリントでチェックし(正しく言えたらチェック欄に)、B

が言えなかったり、間違えたらヒントを与える。答える側の B はプリントを半分に折り、英文が見えないようにしておく(どうしても言えなかったら、プリント裏をチラッと見るのは OK。ただし文字から目を離して答える)。出題は順番でもランダムでも OK。時間がきたら、役割を交代して行う。最後にプリントにサインをして相手に返す。

まとめ・宿題の提示(5分)

本時のまとめとして例文暗記シートの裏面にある、全文を書く問題「**定着確認問題**」「**応用問題**」(資料③)を行う。「定着問題」は教科書と全く同じ問題。「応用問題」はその英文を参考にして下線部を入れ替えればできる問題。

例:定着「バスは校門のところで止まります」⇒応用「バスは私の家の前で (in front of) 止まります」。終わらなかった部分は宿題とする。

補足: 次の時間に行う復習活動例

記憶定着のためには、復習活動が欠かせない。前時に扱った英文を使って Dictation による復習活動を行う。Dictation を行う際は、音にだけ頼った書き取りも単に暗記力に頼った英文暗唱同様意味がない。

そこで、英文を聞いた後すぐに書き出すのではなく、教師が5～10秒カウントし、それから書くように指示をする。頭の中で意味を考えてから英文を再生させるので、意識的または無意識に文法力を使って書くことになる。その際、生徒の力に応じて、ヒントなしで全文を書かせてもよいだろうし、以下のようにヒントとして単語を出てくる順番に与えたプリントを作成し、その下に全文書かせてもよいだ

CLASS: _____ NAME: _____
DATE: _____ SCORE: _____ /14

LESSON 1 定着確認問題 次の文を英語になおさない。
POINT A

- 1 バスは校門のところで止まります。
- 2 練習室は午前10時に開室します。
- 3 あなたのお兄さんはバスで通学していますか。
- 4 「あなたはもうやめて学校に来るのですか」「(私は) 歩いて来ます」
- 5 入学式はお昼前に終わります。
- 6 たくさんのクラスメートが学校の近くに控えています。
- 7 あなたはいつも何時に学校に着きますか。

POINT B

- 1 私の学校は川のそばにあります。
- 2 生徒たちは全員体育館にいます。
- 3 事務室は正面玄関の隣にあります。
- 4 「彼女はどこにいますか」「(彼女は) 4階にいます」
- 5 コンビニは学校の前にあります。
- 6 美術室は音楽室の隣です。
- 7 図書室はどこですか? 「(それは) この廊下のつきあたりです」

CLASS: _____ NAME: _____
DATE: _____ SCORE: _____ /14

LESSON 1 応用問題 前ページの英文を参考にして、次の文を英語になおさない。
POINT A

- 1 バスは私の家の前で (in front of) 止まります。
- 2 私のスピーチは午前8時に開演します。
- 3 あなたのお兄さんは電車ですべて通学していますか。
- 4 「あなたはもうやめて(exam school)に来るのですか」「(私は) 自転車です」
- 5 全校集会(the all-school assembly)はお昼前に終わります。
- 6 たくさんのクラスメートが(ジェンズビル)の近くに控えています。
- 7 真紀(Maki)はいつも何時に学校に着きますか。

POINT B

- 1 私の学校は川のそばにあります。
- 2 生徒たちは全員(グラウンド)にいます。
- 3 (図書室)は職員室(the teachers' office)の隣にあります。
- 4 「彼女はどこにいますか」「(彼女は) (2階)にいます」
- 5 (郵便局)the post office)は学校の前にあります。
- 6 (看護室)the nurse's office)は校長室(the principal's office)の隣です。
- 7 「(視聴覚室)the audio-visual room)はどこですか? 「(それは) この廊下のつきあたりです」

資料③ 定着確認問題・応用問題

ろう。

例：Does your brother go to school by bus? の解答に対して your brother go school bus のヒント。ほとんど解答通りと言われればその通りだが、一般動詞3単現の疑問文、必要な前置詞、文頭大文字、最後はクエスチョンマークなどの文法を意識しないと正しい文を書くことができない。この例文では出てこないが、弱形や連音化などで聞き取りづらい部分(冠詞など)も文法力で補っていることを意識化させることができる。

その他の教材の利用でさらにインプット

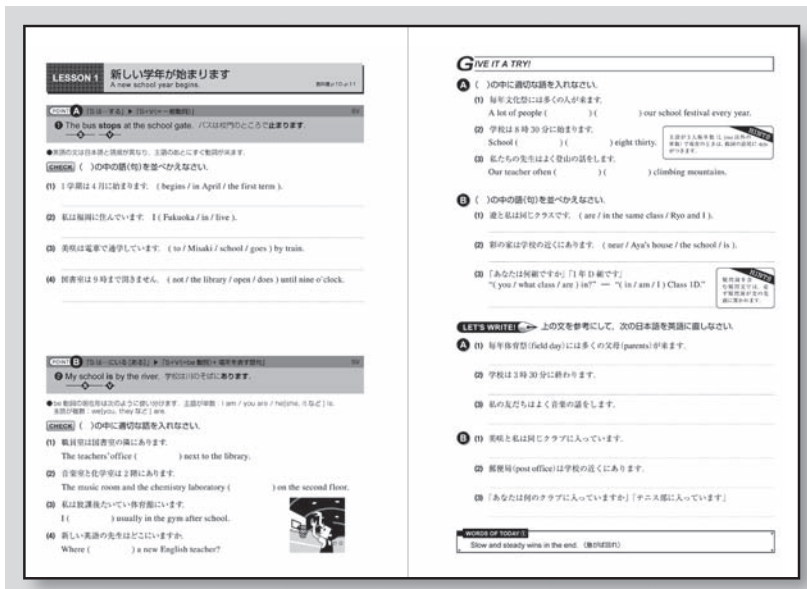
アウトプットにつなげていくためにはその何倍もの量のインプットが必要である。教科書の例文だけでは不十分であるので、教科書準拠の「復習用ワークブック」(資料④)を用いてさらに使える英文をインプットさせたい(授業内に扱うことは現実的には厳しいので宿題になってしまうことが多いだろう)。

見開き2ページの右側の GIVE IT A TRY の小問とその下の LET'S WRITE の小問はリンクしており、単語の一部を入れ替えれば和文英訳の問題ができるように工夫されている。また教科書同様、例文はすべてその課のトピックに即したものになっているので、

文法力+語彙力+表現力が三位一体となり生徒の英語力の育成につながっていく。

おわりに

新学習指導要領は「発信力・表現力」といったキーワードと共に語られているが、自分が受容した英語力と同じレベルの英語で発信することは不可能である。インプット量が10だとして、自分の力で自由に表現できるのはその1割程度、多くても2~3割ではないだろうか。英語の発信力・表現力を身に付けさせるためには、まずはその土台となる英語の基礎力を充実させる必要がある。そのためには大量のインプット、そして身の丈にあったアウトプット(文法的に最初から完璧ということはありえないので、間違いながら)から始めていくことが結局は近道となるのではないだろうか。



資料④ 復習用ワークブック